

第一圖 戸田橋基礎工事全景。地方橋の工事として設備の完備せるは注意すべきである。

## 長大なる井筒沈下を以て知られた

### 戸田橋の基礎工事大に進む

東京府と埼玉縣との境をなす荒川に架せらるゝ國道九號線、戸田橋は昨年夏以來間組の請負にて基礎工事であるが、基礎工事請負金額 498,000 圓に及び、基礎地盤の不良なるを以つて其工事は各方面から多大の興味を以つて見られてゐるものである。然るに幸にして起工以來總て順調に進み杭打基礎橋脚十七ヶ所の内、昨年十一月末に既に十基を完成した。而して主徑間 157.50 米のキャンティレバー構橋の橋脚となるべき基礎井筒は實に大形のものにして短徑 5.3 米、長徑 19.6 米、深さ 37.5 米と 41.1 米の二基で、東京府が現に隅田川上流に施工しつゝある白鬚橋の井筒よりも深さに於て大である。荒川と隅田川と同一河川の上下に於て埼玉縣と東京府が時を同ふして何れも長大なる井筒沈下工事を施工しつゝあるは

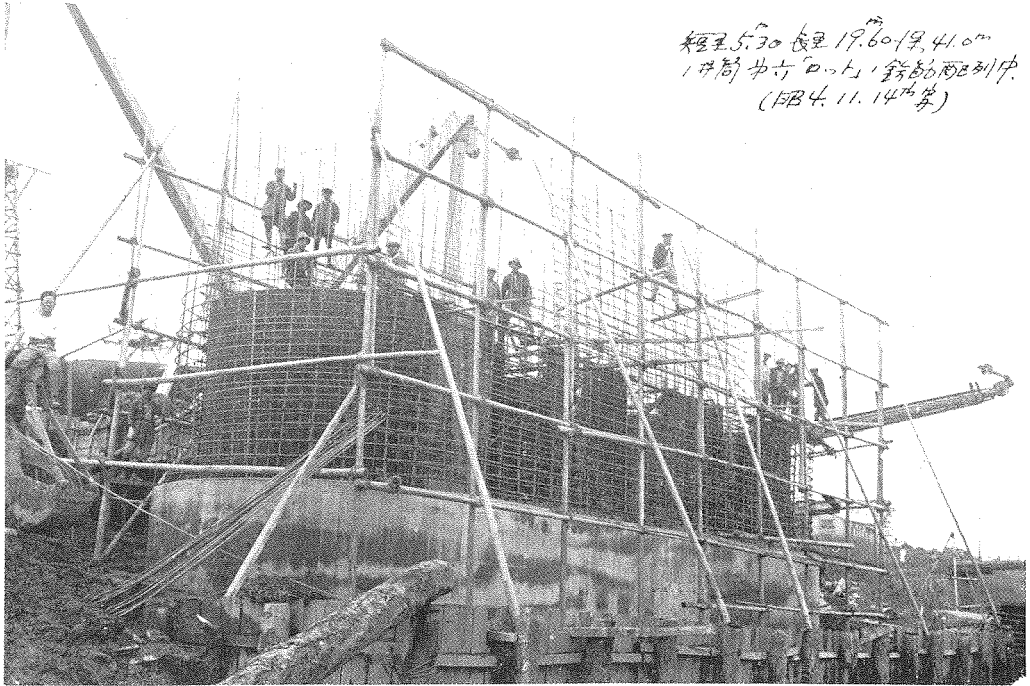
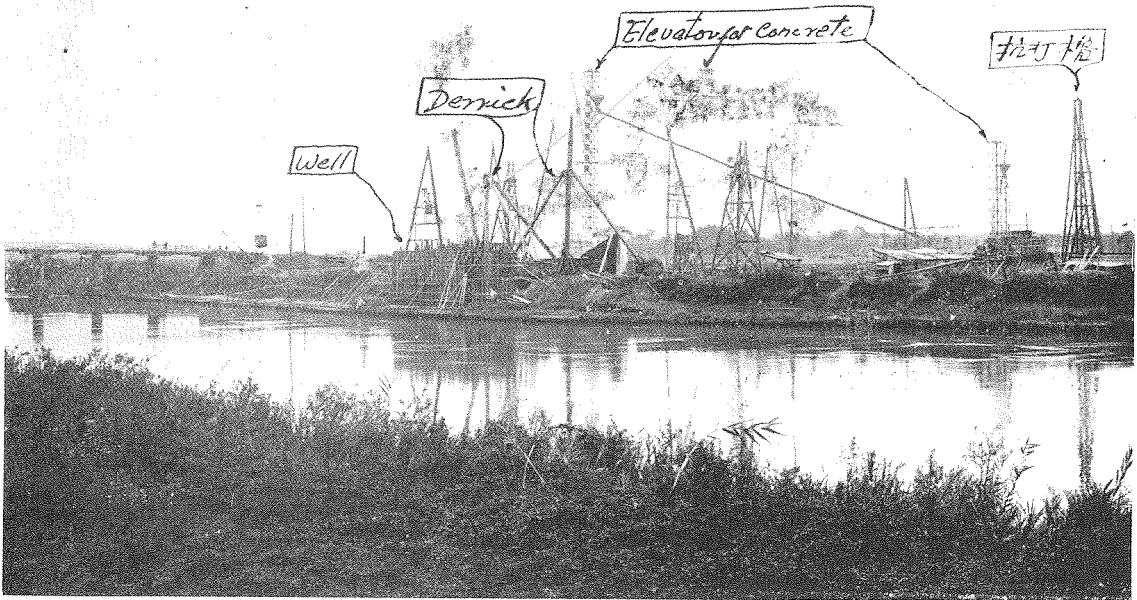
對照上の壯觀でもある。

戸田橋の井筒沈下工事は目下の工事狀況なれば本年四、五月の頃には沈下を終る豫定らしい、一方大林組が工を急ぎつゝある隅田川の白鬚橋も恐らく同時期に井筒沈下を終るかも知れない。何れにしても斯る長大なる井筒沈下工事は最近の一傾向として最も研究に富みたる大工事であると言はねばならぬ。我社は工事進行の資料を得るに従つて之を報道する筈である。

尙ほ戸田橋を視察する道順は省線板橋驛から約二里、此間乗合自動車の便あり、又東北本線蕨驛からも便がある。

因に戸田橋設計及現場監督主任は埼玉縣技師高田貞一氏、基礎工事請負者は合資會社間組(現場代表組員森勇次郎氏)である。

工事現場全景



第2圖 戸田橋基礎井筒沈下工事，短徑5.3米、長徑19.6米、深き41.米の井筒にして其第6  
ロットの鉄筋配列中の景である。(昭和四年十一月十四日撮影)